

閉校記念誌



平成23年3月

栗原市立栗駒小学校耕英分校



目次



耕英小・中学校時代の校章・校歌	2
挨拶	
栗原市長	4
栗原市議会議長	5
栗原市教育委員会教育長	6
栗原市立栗駒小学校長	7
栗駒小学校耕英分校のあゆみ	
耕英小・中学校歴代校長	8
歴任教職員 小学校	9
歴任教職員 中学校	12
沿革史	14
児童・生徒数	21
思い出のアルバム	22
閉校に寄せて	39
耕英のあゆみ発刊誌	45
栗原市立栗駒小学校校歌	47

栗原市立栗駒小学校耕英分校 閉校記念誌

耕英小・中学校校章

図案 佐藤 司



中央に「コウ英」と丸く、その周囲は十字に耕英のぶなの葉を配し、周囲を五葉のはい松でひし形にまとめている。ひし形の頂点(4点)は東西南北を表し、耕英が丸く協力し合いながら、四方に大きく発展していくようにという願いが込められている。

昭和三十九年から昭和四九年まで。



耕英小・中学校校歌

(昭和39年9月4日から昭和49年3月まで)

Musical score for the school song, consisting of six staves of music with lyrics underneath. The lyrics are:

みねは うるわしく りこまの
 やまふと ころに あたらしく
 ぎょうど ひらいた おやたちの
 ろうく おもえば いまさらに
 こうえい われら めがうるむ

耕英小・中学校 校歌

作詞 小野寺 敬一
 作曲 三浦 正志

一 峰はうるわし

山ふと 郷土 開いた
 労苦 思えば
 耕英 われら

栗駒の 新しく
 親たちの いまさらに
 目がうるむ

二 ますむ大気の

地の利をしめる
 今日も 楽しく
 心一つに
 耕英 われら

高原に 学び舎に
 手をつなぎ
 山の子の はげみあう

三 風に雪にも

原生林や 清き流れを
 希望明るく
 耕英 われら

たえている 沢々の
 鏡とし 進むとき
 気がいさむ





耕英分校閉校にあたって

栗原市長 佐藤 勇

秀峰栗駒山の壮大な大自然に生まれ、子どもたちに多くの学びを与えてきた栗駒小学校耕英分校が閉校するにあたり一言ごあいさつ申し上げます。

戦後まもなく、最も過酷な条件の開拓地と言われた耕英地区に入植した開拓者の皆様は、厳しい環境の中、日中は自らの力で住宅や学校の建設、夜は収入を得るために炭焼きと休む暇もなく労働に汗を流され、懸命に生活環境を整備されました。そうした開拓者の努力によって、昭和26年に栗駒小学校耕英分校が開校し、以来60年にわたる長い歴史と伝統を築き、耕英地区の発展に重要な役割を果たしてこられました。この間、190名を超える有為な人材を世に送り出し、県内外におきまして、幅広い分野でご活躍されておりますことは、耕英地区の皆様の長年にわたる温かいご支援の賜であり、厚く御礼申し上げます。また、歴任教職員各位をはじめ、関係者の皆様の並々ならぬご尽力に対し、深く敬意と感謝の意を表する次第であります。

さて、長い歴史の中で、開校当時から大自然に囲まれた中での学習活動は、地域の特色を多く取り入れたものであり、地域とともに歩み続けてきたことを強く印象付けております。特に、開拓者の皆様が試行錯誤し苦労を重ね成功させた、なめこ、椎茸、イチゴ、高原大根、さらにはイワナ養殖の観察は、児童が地域の歴史や環境を学ぶ授業のひとつであり、教育目標である「心豊かで、たくましく生きる子供」が育成されるとともに、開拓者精神が脈々と受け継がれてきたものであります。また、近年では平成20年6月14日に発生いたしました岩手・宮城内陸地震において、栗原市は最大震度6強を記録し、震源地に近い耕英地区においても、山の崩落や道路の寸断など、大きな被害を受けられました。このことにより、避難生活を余儀なくされ、慣れ親しんだ学び舎を離れて授業再開するなど、大変なご苦勞があったことと思います。

現在では、主要道路である県道築館栗駒公園線が全線開通し、以前の賑わいを取り戻してきておりますが、児童数の減少などによる小学校の統廃合が避けられず、本校においても平成21年度から休校となり、本年3月31日をもって校史を閉じることとなりましたことは、非常に残念でなりません。これまで当校を巣立った皆様にとって、母校の閉校は何事にも代え難い寂しさであり、断腸の思いであると思います。また、地域の皆様の愛惜の念も深いものと拝察いたします。しかし、ここで歴史が終わるのではなく、これからは地域の皆さんの憩いの場として、次代へ耕英の歴史と伝統が受け継がれていくよう願うものであります。

今後、学府くりはらの実現に向けて、教師と子ども達がしっかりと向き合い、じっくりと話し合うことで、分かるまで学び、学校生活に満足感や達成感がこれまで以上に得られる、教育環境づくりを目指すとともに、栗駒小学校耕英分校が育んだ歴史が長く受け継がれ、新しい地域の歴史が築かれていくことを心から御祈念申し上げ、閉校記念誌発刊のあいさつといたします。



高原の学び舎に寄せて

栗原市議会議員 小岩 孝一

昭和26年の開校以来、地域の教育文化の中心として、さらには開拓の歴史とともに輝かしい伝統を受け継いでこられた栗駒小学校耕英分校が60年の歴史に幕を閉じることになりました。

閉校記念誌発刊にあたり、栗原市議会を代表してごあいさつを申し上げます。

“郷土開いた親たちの 労苦思えば今さらに 耕英われら 目が潤む”校歌の歌詞でございますが、開拓で入植なされた皆様のたいへんなご労苦と学校建築への熱い思いが込められております。

戦後間もない時期に、ブナの森を切り開き、後継者のため、我が子の教育のためにと、あらゆる困難を乗り越えて校舎建設にご尽力なされました皆様に対し、改めて敬意を表する次第であります。

耕英分校の歴史は、まさに地域の歴史でもあります。地域挙げての教育の中で、厳しくも恵まれた大自然に生まれ、鍛えられて、そして巣立っていった児童たち。

開校以来、今日まで190人を超える人材を輩出されており、卒業された皆さんは、市内はもとより、県内外の各地で活躍されております。このように皆さんが情熱と誇りをもって活躍できる原動力は、ふるさと“耕英”への思いと、母校で学んだ“友愛精神”、そして“粘り強さ”ではないでしょうか。

この度の母校の閉校は、卒業生はもちろんのこと、地域の皆様にとっても数々の思い出とともに、名状しがたい寂しさを感じていることと思います。

しかしながら過疎化、少子化の時代にあって、児童数の減少は著しく、子どもたちの将来を考え、あるべき学校教育の場を考えますとき、閉校というものは避けては通れないものでもあります。

半世紀以上の長きにわたり築かれてきた伝統と崇高な精神は、卒業生をはじめ多くの関係者の方々の間で脈々と生き続けるものと確信いたしております。

卒業生の皆様におかれましては、是が非でもその校風を次代の子どもたちの心に灯し続けていただきたいと思います。願っております。

最後に、今日まで地域の教育振興にご尽力いただきました先生方をはじめ校下のご父兄の皆様に対し、限りない敬意と感謝を申し上げ、閉校記念誌発刊のあいさつといたします。



耕英分校閉校に寄せて

栗原市教育委員会
教育長 亀井芳光

昭和26年、秀峰栗駒山の中腹に開校した栗駒小学校耕英分校が、入植した地域住民の皆様と苦楽を共にし、多くの子どもたちの理想の学び舎として歩んできた60年の歴史に幕を閉じ、平成23年3月末をもって閉校することになりました。

「学校は地域に浮かぶ船である」と称されるように、学校は地域の皆様が手塩にかけて創り上げてきた地域の象徴であり、誇りでもあります。地域の皆様には、学校再編に様々な思いがある中、これからの時代を生き抜く子どもたちの教育を第一義に考えられまして、学校再編にご理解をいただきましたことに心から感謝と敬意を表します。

戦後まもなく、この過酷な地に入植された皆様は、風雪と闘いながら開拓に努められ、生活環境整備と地域づくりに多大なご貢献をされてまいりました。

山を拓き、畑を耕す厳しい労働環境の中、教育に対する思いも強く、入植された皆様が一丸となって、後継者の育成のため、昭和26年、耕英小・中学校を開校されたことは、地域の歴史であります。学校が、文化の中心地であり、地域の心のよりどころ、地区コミュニティの中核としての役割を成し、190名を越える優れた人材を輩出してきたことも、地域の皆様の学校に対する信頼とご支援の賜であります。

私事になりますが、まだ独立校であった耕英小・中学校に昭和48年10月から平成49年3月まで、講師として勤務させていただきました。独立校として最後の年度であり、地域の皆様の学校への思いを肌で感じることができるとともに、その後の私の教職人生に大きな影響を与えてくれた6ヶ月間でありました。まさに、教育そのものの原点を学んだといっても過言ではない貴重な体験でした。

担任していたある児童のお母さんが、「子どもが病気になった時、背中におんぶして、雪をこぎながら何時間もかけて、岩ヶ崎の病院に連れて行ったんですよ」と話してくれた言葉を今も忘れることができません。

しかしながら、少子化・過疎化が急激に進む時代にあって、今後の学校のあり方や児童生徒の教育を考えたとき、学校再編を避けて通ることができない時期に来ていることも事実であります。母校であり地域の象徴である学校の閉校は、多くの卒業生にとっても、地域の皆様にとっても愛惜の念と共に口には出せない寂しさを感じていることと思います。

平成23年4月からは、岩ヶ崎小学校の児童として、平成25年4月からは現在予定されている岩ヶ崎小学校・鳥矢崎小学校・栗駒小学校の再編による新しい再編小学校で学ぶこととなります。再編後は、これまで半世紀以上にわたり地域の皆様と共に歩み引き継がれてきた耕英分校の教育の精神や輝かしい歴史・伝統が子々孫々まで語り継がれていくと共に、新しい再編学校づくりに生かされるよう心から願い、閉校記念誌の発刊に寄せることばといたします。



耕英われら 目がうるむ

栗原市立栗駒小学校
校長 佐藤 純 一

題名は昭和39年制定の耕英小中学校校歌一番の最終節です。開校でうるませた同じ目を閉校でうるませる日が訪れるとは、誰も思わなかったことでしょう。およそ半世紀の時間で世の移ろいですが、もののあわれや無常を感じさせられます。

私は縁があって栗駒小学校長となり、今2年目の任を終えようとしています。ただ、分校はこの2年休校していたので分校・耕英地区と強くかかわる機会はありませんでした。ですから、目をうるませるにしても、耕英や栗駒に長くかかわってきた方々の「うるみの深さ」には及ぶべくもありません。そんな私ですが、耕英分校要覧にある沿革史を辿りながら、そこに自分の来歴やその頃の世相を重ね合わせることで、少しは分校や耕英との距離も縮まるのではないかと考えました。

私が生まれる前年の昭和26年に栗駒小学校耕英分校が開校しています。児童数は17名で1学級。昭和35年に鉄筋コンクリート校舎が竣工。この年に私は、当時住んでいた志津川町でチリ地震津波の被害にあいました。翌36年に分校は耕英小中学校として本校から独立。その時の小学生はなんと73名、学級は4クラスもありました。現在の栗駒小学校全児童数が51名ですから、まったく驚くほどの児童数です。昭和30年代には児童数が急増。そのピークが昭和39年で、児童数80名5学級です。この年に耕英小中学校校歌が制定されました。ところが、私が中学・高校生だった昭和40年代に入ると児童数は一気に減少します。県指定へき地教育研究を公開した昭和44年には、ピーク時の半数40名。そしてついに、昭和49年3月に耕英小中学校は閉校し、小学校の分校だけが4月に開校します。巨人軍の長島選手が引退した年です。

私が教員になったのは昭和52年でした。その前年の51年には「たった一人の入学式」がTVで放映されています。児童数はなんと4名まで減っています。開校30周年同窓会を開催した昭和56年は「3年ぶりの入学式」を再びTVが放映、児童数は3名。

平成13年、私は栗駒町立鳥矢崎小学校の教頭として初めて栗原に赴任しました。分校はその年に創立50周年の記念式典を行っています。宮城国体が開催された年です。児童数は3名。平成16～17年は児童数が沿革史上最も少ない2名。平成17年度には町村合併により、栗原市立栗駒小学校耕英分校と改称しました。そして、平成20年6月14日、岩手・宮城内陸地震に被災し分校の機能は本校に移され、分校はそのまま休校状態となり現在に至ります。

分校の学校要覧は平成20年度で止まっています。耕英分校閉校の記録は本校の要覧に記されることになるでしょう。その本校も、学区再編により平成24年度をもって閉校することが決まっています。

耕英小学校・中学校
歴代校長



初代
伊藤 敬二郎
(昭和 36.10.1~昭和 38.3.31)



第2代
菅原 繁
(昭和 38.4.1~昭和 39.9.3)



第3代
和泉 直治
(昭和 39.9.4~昭和 41.3.31)



第4代
寺坂 二男
(昭和 41.4.1~昭和 45.3.31)



第5代
伊藤 順吉
(昭和 45.4.1~昭和 47.3.31)



第6代
菅原 文雄
(昭和 47.4.1~昭和 49.3.31)

歴任教職員 小学校

校名	年度	校長	小学校			
			教頭	教員	児童数	学級数
栗駒村立栗駒 小学校耕英分校	26	菅原 富士郎	※S41年から設置	山本 俊子	17	1
	27	菅原 富士郎		山本 俊子	16	1
	28	千葉 憲司		山本 俊子	19	1
	29	千葉 憲司		山本 俊子	11	1
栗駒町立栗駒小学校耕英分校	30	千葉 憲司		山本 俊子	27	1
	31	家喜 喜代治		山本 俊子	32	1
	32	家喜 喜代治		山本 俊子・森 蒔	35	2
	33	三浦 義勇		山本 俊子・鹿野 謙一	39	2
	34	三浦 義勇		山本 俊子・鹿野 謙一	51	2
	35	高橋 盛夫		山本 俊子・菅原 勇喜 小野寺 正巳	68	3
		斉藤 勝雄 (4.1～)		相馬 高・小野寺 正巳・高橋 京子	73	4
36	伊藤 敬二郎 (10.1～)		寺島 孝子・高橋 享			
栗駒町立 耕英 小学校	37	伊藤 敬二郎		相馬 高・高橋 享・菅原 健郎 小林 恵子・遠藤 禎子・土井 京子	80	4
	38	菅原 繁		高橋 享・佐藤 司・小林 恵子 菅原 富子・高橋 千賀子	75	5
	39	菅原 繁 (4.1～) 和泉 直治 (9.4～)		佐藤 司・後藤 虎郎・菅原 富子 円野 玲子・高橋 千賀子・皆川 久子 (調理員)八木 八千代(S39～H7)	80	5
	40	和泉 直治		後藤 虎郎・小野寺 弘治 菅原 和子・千葉 峯子・細野 典子 (養)市川 弘子	77	5
	41	寺坂 二男	菅原 昭	後藤 虎郎・小野寺 弘治 菅原 和子・千葉 峯子	70	4
	42	寺坂 二男	菅原 昭	小野寺 弘治・小野寺 郁夫 小松 清高・佐々木 恵美子	64	4
	43	寺坂 二男	伊藤 清	小野寺 郁夫・佐藤 泰祐・高橋 清 小松 清高・佐々木恵美子・千葉 貞子	53	4
	44	寺坂 二男	伊藤 清	小野寺 郁夫・佐藤 泰祐・高橋 清 太宰 貞一・千葉 貞子・松田 茂子	40	5
	45	伊藤 順吉	佐藤 眸	佐藤 泰祐・高橋 長江・高橋 清 太宰 貞一・菅原 史子・松田 茂子	29	4

校名	年度	校長	小学校			
			教頭	教員	児童数	学級数
栗駒町立耕英小学校	46	伊藤 順吉	佐藤 眸	高橋 長江・狩野 欣一 高橋 清・太宰 貞一	19	3
	47	菅原 文雄	佐藤 吉郎	狩野 欣一・高橋 尚 太宰 貞一・三浦 京子	15	3
	48	菅原 文雄	佐藤 吉郎	狩野 欣一・高橋 尚・三浦 京子	10	3
栗駒町立栗駒小学校 耕英分校	49	小野寺 巧	高橋 長江	狩野 欣一・市川 昭男・佐藤 正美	6	3
	50	百々 小五郎	狩野 欣一	市川 昭男・佐藤 正美	4	2
	51	百々 小五郎	千葉 章	市川 昭男・佐藤 正美	4	2
	52	佐藤 吉郎	千葉 章	市川 昭男・高橋 壮成	4	2
	53	佐藤 吉郎	千葉 章	高橋 壮成・菅原 陸郎	3	2
	54	佐藤 吉郎	千葉 敏夫	高橋 壮成・四宮 高男	2	1
	55	佐藤 幸一	千葉 敏夫	高橋 壮成・四宮 高男	2	1
	56	佐藤 幸一	高橋 禮伍	四宮 高男・小泉 信治	3	2
	57	佐藤 幸一	高橋 禮伍	小泉 信治・及川 和夫	2	1
	58	佐藤 幸一	高橋 禮伍	小泉 信治・菅野 正紀・及川 和夫	4	2
	59	佐藤 孝志	佐藤 典夫	菅野 正紀・及川 和夫・菅原 喜悦	6	2
	60	佐藤 孝志	佐藤 典夫	菅野 正紀・菅原 紀内・菅原 喜悦	10	2
	61	鈴木 功	千葉 俊彦	熱海 正武・菅原 紀内 菅原 太・菅原 喜悦	13	3
	62	鈴木 功	千葉 俊彦	熱海 正武・菅原 紀内 田代 茂利・菅原 太	14	3
	63	鹿野 守彦	佐藤 敬夫	熱海 正武・田代 茂利・菅原 太 後藤 法明・小林 正明	15	3
	元年	鹿野 守彦	佐藤 敬夫	家喜 克彦・後藤 法明・鈴木 睦彦 小林 正明・鈴木 雄孝	13	3
	2	菅原 幹夫	菅原 勝夫	後藤 法明・鈴木 睦彦・鈴木 雄孝	10	2
3	菅原 幹夫	菅原 勝夫	佐藤 西三・鈴木 睦彦・鈴木 雄孝	6	2	
4	菅原 陸郎	鈴木 泰明	佐藤 西三・鈴木 睦彦・曾根原 朗	5	2	
5	菅原 陸郎	鈴木 泰明	佐藤 西三・曾根原 朗・氏家 伸	5	2	
6	日野 徳朗	山田 敏春	佐藤 西三・曾根原 朗・氏家 伸	3	2	
7	日野 徳朗	山田 敏春	佐藤 西三・氏家 伸 (調理員) 八木 八千代 (S39~H7)	2	1	

校名	年度	校長	小学校			
			教頭	教員	児童数	学級数
栗駒町立栗駒小学校耕英分校	8	濱田 利昭	阿部 悟	佐藤 西三・市川 茂・山田 晃 (調理員) 佐々木 紀子	4	2
	9	濱田 利昭	阿部 悟	石川 敦・市川 茂・山田 晃 (調理員) 石田 亜紀	4	2
	10	鹿野 昌行	高橋 紘起	石川 敦・熊谷 義行・山田 晃 (調理員) 石田 亜紀	3	2
	11	鹿野 昌行	長田 忠昭	石川 敦・市川 茂・熊谷 義行 (調理員) 高橋 美奈子	3	2
	12	鹿野 昌行	長田 忠昭	高橋 基浩・熊谷 義行 (調理員) 高橋 美奈子	2	1
	13	高橋 義昭	長田 忠昭	高橋 基浩・熊谷 義行・河野 健 (調理員) 高橋 美奈子	3	2
	14	高橋 義昭	横山 剛	高橋 基浩・熊谷 義行 (調理員) 鈴木 絹恵	2	1
	15	高橋 義昭	横山 剛	高橋 基浩・宮島 さく子・河野 健 (調理員) 千葉 清子	4	2
	16	鹿野 裕	横山 剛	宮島 さく子・千葉 修 (調理員) 千葉 清子	2	1
栗原市立栗駒小学校耕英分校	17	鹿野 裕	小野寺 文夫	宮島 さく子・千葉 修 (調理員) 佐藤 すま子	2	1
	18	早坂 敏	小野寺 文夫	宮島 さく子・千葉 修・吉澤 竜一郎 (調理員) 佐藤 すま子	4	2
	19	早坂 敏	氏家 伸之	宮島 さく子・佐藤 伸・三浦 崇 (調理員) 佐藤 すま子	3	2
	20	早坂 敏	鈴木 國彦	宮島 さく子・遊佐 信祐・三浦 崇 (調理員) 菅原 博恵	3	2
	21	休 校				
	22	休 校				

歴任教職員 中学校

校名	年度	校長	中学校			
			教頭	教員	生徒数	学級数
栗駒村立栗駒中学校 学校耕英分校	27	菅原 富士郎	※S37 から設置	小野寺 正男	3	1
	28	千葉 憲司		小野寺 正男	4	1
	29	千葉 憲司		小野寺 正男	4	1
栗駒町立栗駒中学校耕英分校	30	千葉 憲司		菅原 明	6	1
	31	家喜 喜代治		菅原 明	5	1
	32	家喜 喜代治		佐藤 玉芳	8	1
	33	三浦 義勇		佐藤 玉芳	7	1
	34	三浦 義勇		千葉 茂	7	1
	35	高橋 盛夫		菅原 稔・佐藤 明夫	10	1
栗駒町立栗駒中学校耕英分校	36	齊藤 勝雄 (4.1~) 伊藤 敬二郎 (10.1~)		菅原 稔・佐藤 明夫	16	1
	37	伊藤 敬二郎	高松 一孝 (9.1~)	佐藤 明夫・長谷部 憲穂	18	1
	38	菅原 繁	高松 一孝	長谷部 憲穂・菅野 健郎	15	1
	39	菅原 繁 (4.1~) 和泉 直治 (9.4~)	千田 正光	菅野 健郎・川田 清男	17	1
	40	和泉 直治	千田 正光	川田 清男・後藤 清生・阿部 弥八	22	2
	41	寺坂 二男	菅原 謙	後藤 満生・阿部 弥八・板宮 靖男 菅原 功・細野 典子・遊佐 徹 早坂 郁子・鈴木しげ子	37	3
	42	寺坂 二男	菅原 謙	板宮 靖男・菅原 功・千葉 信一郎 後藤 満生・阿部 弥八・遊佐 徹 早坂 郁子・千葉ユウ子・鈴木しげ子	41	3
	43	寺坂 二男	菅原 昭	千葉 信一郎・菅原 文夫・菅原 功 遊佐 徹・阿部 次男・早坂 郁子 千葉 ユウ子・(養)松本 洋子	47	3
	44	寺坂 二男	高橋 栄	千葉 信一郎・菅原 文夫・佐藤 臣 阿部 次男・千葉 清子・下河辺 行隆 石川 康子・(養)松本 洋子	42	3
	45	伊藤 順吉	高橋 栄	千葉 信一郎・菅原 文夫・阿部 次男 下河辺 行隆・佐々木 景喜 伏見 和子・石川 康子・京極 美和 若林 きみ子・高橋 典子	41	3

校名	年度	校長	中学校			
			教頭	教員	生徒数	学級数
栗駒町立耕英中学校	46	伊藤 順吉	小山 次男	菅原 文夫・岩本 佳一・佐々木 景喜 斎藤 正男・及川 嘉郎・佐藤 あつ子 齋藤 由紀子・高橋 典子	35	3
	47	菅原 文雄	小山 次男	高橋 長江・岩本 佳一・酒井 和男 佐々木 景喜・及川 嘉郎・斎藤 正男 齋藤 由紀子・(養)木村 絹子	26	3
	48	菅原 文雄	大和田行俊	高橋 長江・岩本 佳一・酒井 和男 佐々木 景喜・秋山 和徳・及川 嘉郎 斎藤 正男・(養)木村 絹子	18	3

※栗駒町立耕英中学校は、昭和49年4月1日栗駒町立栗駒中学校に統合

第4代寺坂二男校長と
教職員一同



第5代伊藤順吉校長と
教職員一同

第6代菅原文雄校長と
教職員一同



耕英分校 沿革史

年度	月 日	主 な 出 来 事
25	11月	学校建築認可 校舎落成（木造平屋建）
26	4月1日	栗駒村立栗駒小学校耕英分校開校
27	4月1日	栗駒村立栗駒中学校耕英分校開校
28		
29		
30	4月1日	町村合併により栗駒町立となる
31	9月1日	職員住宅建設（現2棟）
32	4月1日	小学校1学級増
33	1月10日	自家発電施設竣工 テレビ受像機受贈（教職員組合栗原支部より）
		集落の家族が視聴に來校
34	10月1日	校舎改築工事起工
35	4月1日 11月1日 11月9日	小学校1学級増 分校を耕英小学校・耕英中学校として独立請願 鉄筋コンクリート3教室（現東側）・玄関・便所竣工
36	4月1日 10月1日 11月9日	小学校1学級増 栗駒町立耕英小学校・耕英中学校独立 職員住宅増築（現1棟）
37	5月24日 9月1日 3月31日	耕英小中学校父母教師会発足 中学校に教頭職設置 中学校に特別教室・普通教室1増 職員住宅（現3棟）・婦人ホーム竣工。3月第1回卒業式 ※県産業教育研究指定校（県）
38	4月1日 9月4日 9月26日 11月13日 11月22日 3月8日	小学校1学級増 放送設備取付 電話架設開通 給食棟完成 水道工事完工 米飯給食開始
		写真は昭和42年の給食の様子
39	7月2日 9月4日	県産業教育研究会公開 校章制定 図案 佐藤 司（先生） 校歌制定 校歌 作詞：小野寺 敬一（栗駒町） 作曲：三浦 正志（若柳町）



年度	月 日	主 な 出 来 事
40	4月1日	中学校1学級増・養護教諭設置
	4月1日	県産業教育研究指定校（中学校）
	4月1日	郡へき地教育研究指定校（小学校）
	11月8日	小学校普通教室2・宿直室・保健室増築
	11月8日	木造校舎解体工事完了
41	4月1日	小学校1学級減・中学校1学級増・小学校に教頭職設置
	5月9日	ナメコ栽培開始
	8月21日	職員住宅建設（現4棟）
	9月24日	給食亜炭倉庫完成
	9月26日	小学校郡へき地教育研究会公開
	11月16日	電灯地区全戸へ普及
42	4月	学校園農場完成
	4月1日	中学校郡道徳教育研究指定校
	6月5日	中学校山岳奉仕LB4発足
	9月5日	中学校3年生修学旅行（東京・江の島・鎌倉方面 3泊4日）
	11月5日	婦人ホーム床張替え
	11月5日	職員住宅新築（現5棟）・寄宿舍風呂完成
	1月25日	県中体連スキー大会出場（総合2位）
43	4月10日	小学校県へき地教育研究指定
	6月30日	学校農場経営・耕運機導入
	9月24日	野菜を市場へ初出荷
	10月1日	中学校郡道徳教育研究会公開
	11月21日	越冬野菜貯蔵庫完成
	2月4日	県中体連スキー大会第二部で男子総合1位
44	4月28日	給食用重油バーナ取付
	5月13日	栗駒ダム管理事務所よりワゴン1台寄贈
	8月14日	へき地交歓会（女川五小・女川三中与江の島にて）
	9月5日	婦人ホーム畳入替え
	9月20日	校庭に遊具設置（工費10万円）
	9月20日	校地南側2m拡張（栗原建設の奉仕による）
	9月30日	県へき地教育研究会公開
	10月6日	へき地交歓会（女川五小・女川三中を迎えて）
45	9月10日	イワナ観察池完成
	10月4日	中体連駅伝マラソン初参加
	10月25日	スキー場（校庭下）完成
	1月25日	県中体連スキー大会参加、第一部で二種目に優勝（女子総合優勝）
	2月2日	中体連スキー東北大会出場（青森・大鰐）



年度	月 日	主 な 出 来 事
46	5月23日	「せつことあきおの世界」仙台放送より放映
	7月27日	招待臨海学校
	9月2日	サイエンスカー来校
	10月9日	開校10周年記念式典
	11月9日	招待旅行（仙台）
	1月24日	県中体連スキー大会参加、一部で男女総合3位・女子個人優勝
	2月10日	中体連スキー全国大会に出場（北海道・富良野）
47	7月21日	招待臨海学校
	10月3日	清掃登山
	10月31日	郡へき地研究公開
	1月17日	県中体連スキー大会参加、一部で総合4位
	1月27日	中体連東北大会出場（鳴子）
	2月7日	中体連全国大会出場（長野・白馬）
48	5月25日	県教育委員会学務課学校訪問
	8月29日	県教育委員会よりコピー機贈呈
	11月6日	東北電力より電気温水器寄贈
	1月28日	県中体連スキー大会出場総合優勝（鳴子）
	2月7日	全国・東北スキー大会に3名参加（山形県赤倉）
	3月17日	大和田行俊中学校教頭ご逝去
3月28日	栗駒町立耕英小学校・中学校閉校式（中学校は栗駒町立栗駒中学校に統合）	
49	4月1日	栗駒町立栗駒小学校耕英分校開校
	11月2日	長谷川労働大臣、山本宮城県知事学校訪問
	3月18日	東北電力築館営業所より図書寄贈
50	6月18日	科学巡回車なかよし号来校
	7月26日	深尾電線よりポリ風呂、ボイラー寄贈
	10月11日	佐藤達夫弁護士より図書寄贈
	10月21日	東北放送授業風景耕英地区の生活について取材（23日放映）
	11月5日	校舎南側（玄関より西側2教室）校舎窓枠サッシに入替え
51	4月9日	「たった一人の入学式」仙台放送より放映
	10月22日	郡算数研究公開
52	7月1日	校舎内配置転換（給食室・教室・職員室）
53		
54	8月28日	校舎屋根全面補修
	9月29日	電子コピー購入
55	10月7日	VTR購入
	11月6日	耕英全戸に電話開通
	11月18日	郡へき地分校研究公開

年度	月 日	主 な 出 来 事
56	4月9日 8月14日 11月18日	「三年ぶりの入学式」仙台放送で放映 開校30周年記念同窓会開催 車庫新設（校舎西側）・婦人ホーム屋根張替え
57	8月6日 9月4日 9月6日 9月18日 11月9日	栗教協へき地分校研究公開 校舎サッシ化（廊下窓 9/4、休憩室窓 10/9、図書室窓 11/5） 玄関屋根・玄関前側溝修理 沢水水道補修 婦人ホーム床張替え
58	4月1日 8月31日 9月29日 11月21日 3月14日	教員一名増 井戸ボウリング工事 給食室改装移転 婦人ホーム窓サッシ化・浴室改装ボイラー取付 耕英分校史（軌跡）作成
59	9月22日 10月27日 1月	寄宿舍改装工事 廊下全面改装 図書室・オープンルーム畳入替え 婦人ホームの通路改修 県北書き初め展出品 特別団体賞・東日本放送賞受賞
60	4月～	耕英開拓史「風雪とともに」完成 ガス小屋改装 婦人ホームへの通路改装 職員宿舎2棟の床改修工事 栗駒町民スキー大会教育長杯団体優勝
61	4月 5月 6月 7月	教員1名増 電力50Aに変更、校舎天井・壁全面塗装（職員室・廊下・図書室） 校門補修、鉄棒・三連・砂場・バスケットコート等設置 宿直室床落ち改修、畳表替え、旧調理室・倉庫屋根替え 水道モーター取換え・ビデオデッキ・2段ベット2台 サンボット式ストーブ・暗幕一式・職員室カーテン・2段梯子 一脚アルミ製脚立・焼却炉購入 郡書き初め展13名全員入賞、町民スキー大会団体準優勝
62	5月 6月 7月 9月 10月 12月 1月 2月 3月	玄関タキロン修理・塗装完了 国旗掲揚塔・ブランコ設置、金明水樹木名表示 校庭側側溝工事（東側） 職員室用長椅子1台購入 グローバーテレホン新設 ビデオレコーダー・石油貯蔵タンク購入 給食用グリル1台購入 職員室用テーブル1台購入 町民スキー大会団体準優勝 教室・職員室蛍光灯2本設置

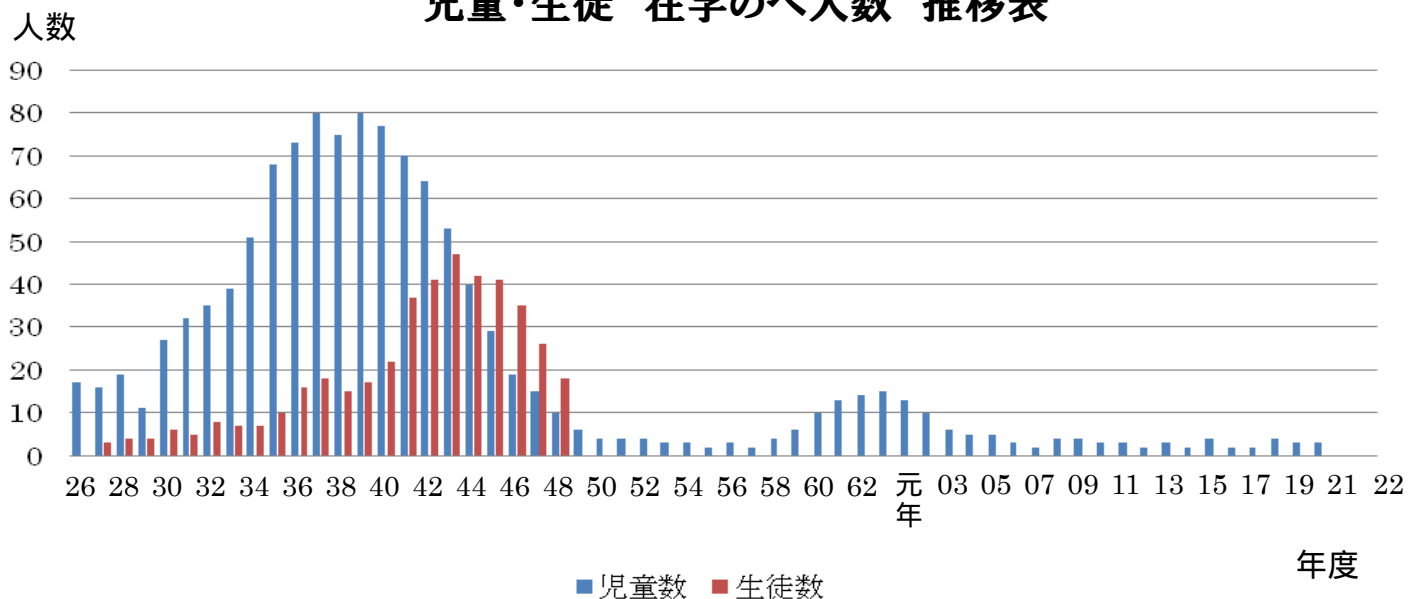


年度	月 日	主 な 出 来 事
63	4月～ 11月2日	<p>婦人ホーム天井改修工事 資料室に一部教室転用改装 電子レンジ購入 初出場第42回郡音楽祭 北部体育大会参加町民スキー大会団体準優勝</p> 
元年	4月～	<p>通路・駐車場舗装工事 玄関・職員室照明取付 磁性黒板設置 全日本書写書初め展全員入賞 町民スキー大会団体優勝</p>
2	4月～	<p>婦人ホーム軒天・廊下・屋根改修工事、教室・職員室 ・寄宿舍等床フロア改修工事、サッシ戸入替え 第44回郡音楽祭・北部体育大会参加 町民スキー大会団体2年連続優勝 テレビ共聴アンテナ取付</p> 
3	4月～	<p>オープンルーム窓二重窓に改修、玄関改修 開校40周年記念式典実施 冷蔵庫・FF暖房機・下駄箱・布団収納庫購入 東日本放送「分校の子ども達の一年」放映 町民スキー大会団体3年連続優勝 県スキー大会・郡音楽祭参加</p>
4	4月～	<p>民放テレビ4局で「3年ぶりの入校式」放映 郡視聴覚センター「風雪とともに」県優秀賞受賞 婦人ホーム物置・トイレ前倉庫修繕 西側側溝工事 給食室関係電気配線 寄宿舍喚起窓サッシ取替え 第46回郡音楽祭参加、町民スキー大会団体準優勝</p>
5	4月～	<p>NHK「まるまるみやぎ」で月1回TV放送 いwana池通水工事（PTA奉仕） いwana養殖再開 オープンルーム・宿直室修繕 給食室喚起窓サッシ取替え 教室2室・宿直室ストーブ交換取付 北部陸上大会女子高跳び優勝 第47回郡音楽祭参加、町民スキー大会団体優勝</p>
6	4月～	<p>職員住宅解体工事（全5棟） 井戸ポンプ交換、ろ過機装置設置 オープンルーム畳表替え、雪囲い用パネル板整備 婦人ホーム床の間修理 電話機コードレスに交換、液晶ビデオカメラ購入 第48回郡音楽祭参加、町民スキー大会高学年個人優勝・団体3位</p>

年度	月 日	主 な 出 来 事
7	4月～	4年生2名の1学級となる 校舎裏側溝工事（約80m）、焼却炉交換 第49回郡音楽祭参加、栗駒高原スキー大会参加 給食調理員八木八千代さん定年退職（32年間勤務）
8	4月～	4年ぶりの入校式 1学級（1年・3年複式学級）増 第50回郡音楽祭参加 1学級（1年・3年複式学級）減 栗駒高原スキー大会高学年個人優勝
9	4月～	1学級（2年・4年複式学級）増 第51回郡音楽祭参加 栗駒高原スキー大会団体5位（1年～3年女子2位、4年～6年女子3位）
10	4月～	2年ぶりの入校式（民放テレビ局で放送） 第52回郡音楽祭参加 栗駒高原スキー大会（1年～3年男子2位、1年～3年女子1位）
11	4月～	電気配線工事、職員室コンセントセ設置工事、校庭整地補修 第53回郡音楽祭参加 栗駒高原スキー大会（1年～3年男子3位、4年～6年女子3位）
12	4月～	1学級（3年・5年複式学級）減 宿直廃止、セコム整備システム業務委託開始 浴室ボイラー交換、廊下側窓枠補修 栗駒高原スキー大会（1年～3年男子1位）
13	4月～	3年ぶりの入校式、1学級（4年・6年複式学級）増 教室天井張替え、上水道管敷設工事、校舎前舗装工事 開校50周年記念式典実施 栗駒高原スキー大会「山の学校」チーム3位
14	4月～	1学級（2年・5年複式学級）減 パソコン・インターネット工事 栗駒高原スキー大会（1年～3年女子3位・4～6年男子1位）
15	4月～	2年ぶりの入校式、1学級（3年・6年複式学級）増 郡音楽祭参加 オープンルーム畳表替え 栗駒高原スキー大会（1年～3年男子2位、1年～3年女子1位）
16	4月～	1学級（2年・4年複式学級） わんぱく相撲栗原場所新相撲出場（敢闘賞受賞） 灯油庫設置工事、雪囲い取替え 郡音楽祭参加、栗駒高原スキー大会（1年～3年女子1位）

年度	月 日	主 な 出 来 事	
17	4月～	1学級（3年・5年複式学級） 栗原市音楽祭参加 栗原市栗駒武道祭相撲競技新相撲の部高学年（5年）1位 栗駒高原スキー大会（1年～3年女子1位、4年～6年女子2位） きのこ（なめこ・ひらたけ）植菌	
18	4月～	8月から2学級（4年・6年複式/2年） 灯油ポンプ設置、ガス庫屋根修繕、FAX・職員室扉交換 栗原市音楽祭参加、作文みやぎ県入選（4年詩） 県造形展入選4年生2名・6年生1名（県美術館展示）	
19	4月～	2学級（3年・5年） 耕英入植60周年を祝う会で劇「風雪とともに」を上演 栗原市音楽祭参加、灯油庫すき間修繕 栗原市民スキー大会参加（赤倉スキー場）	
20	4月 6月14日 6月15日 6月17日 6月23日 8月1日 8月3日 8月12日 9月11日 9月17日 10月7日 1月8日 12月24日 9月15日 10月23日 11月28日 11月 1月末 1月末 2月22日 3月15日	2学級（4年・6年） 岩手・宮城内陸地震発生（午前8時43分） 自衛隊耕英分校に宿泊開始（1週間窓滝付近捜索） 耕英地区に避難指示発令（ヘリコプターにより住民下山） 栗駒小学校にて耕英分校授業再開 仮設道路開通（市道馬場駒湯線） 陸路による一時帰宅開始 水道復旧（耕英地区） 電気復旧 電話復旧 耕英分校校舎復旧工事開始 耕英分校校舎復旧工事完了 本道路開通（市道馬場駒湯線） 耕英地区敬老会参加（岩ヶ崎くりこま応援の会にて） 栗原市音楽祭参加 耕英分校感謝祭（岩ヶ崎くりこま応援の会にて） 県造形展入選6年2名（県美術館展示） 雪囲い（分校玄関） 耕英分校平成21年度休校発表 栗原市民スキー大会小学生女子高学年の部優勝 耕英分校卒業を祝う会	 
21	4月～	平成21年度休校 セコム機械警備再開・動画像転送システム再開	
22	4月～ 3月11日 3月31日	平成22年度休校 東北地方太平洋沖地震発生（午後2時46分） 栗原市立栗駒小学校耕英分校閉校	

児童・生徒 在学のべ人数 推移表



児童・生徒 卒業人数

年度	小学校	中学校	年度	小学校	中学校	年度	小学校	年度	小学校
	児童数	生徒数		児童数	生徒数		児童数		児童数
26	1	S27に開校	41	11	5	56	1	8	0
27	3		42	17	11	57	0	9	2
28	1		43	14	19	58	0	10	0
29	4		44	11	11	59	1	11	1
30	2		45	10	16	60	0	12	0
31	3		46	5	14	61	1	13	1
32	4		47	6	11	62	1	14	0
33	2		48	5	8	63	3	15	2
34	8		49	2	中学校統合	元年	2	16	0
35	4		50	1		2	4	17	0
36	6		51	0		3	3	18	1
37	6		52	1		4	0	19	0
38	6		53	1		5	2	20	2
39	11		54	1		6	1	21	休校
40	18		55	0		7	0	22	休校



小・中学校卒業生総数

小学校 192名 (昭和26年～平成20年)
 中学校 141名 (昭和27年～昭和48年)

思い出のアルバム



～写真でつづる学校のあゆみ～



学校給食



H15 分校バイキング



S63 給食風景



S62 給食風景



H15 分校バイキング





音楽祭



S63 第42回郡音楽祭



H2 第44回郡音楽祭



H11 第53回郡音楽祭

イワナ養殖



H6 岩魚とり



H6 岩魚とり



運動会



耕英小中学校時代の校旗



S48年頃 運動会



スキー大会



S63 スキー教室



S61 町民スキー大会



H10 スキー教室



H20 市民スキー大会 (赤倉スキー場)



ふるさと学習



S61年 ふるさと学習



H62 いちごの世話



H10 苗の植え付け



H15 畑と花壇



きのこ植菌

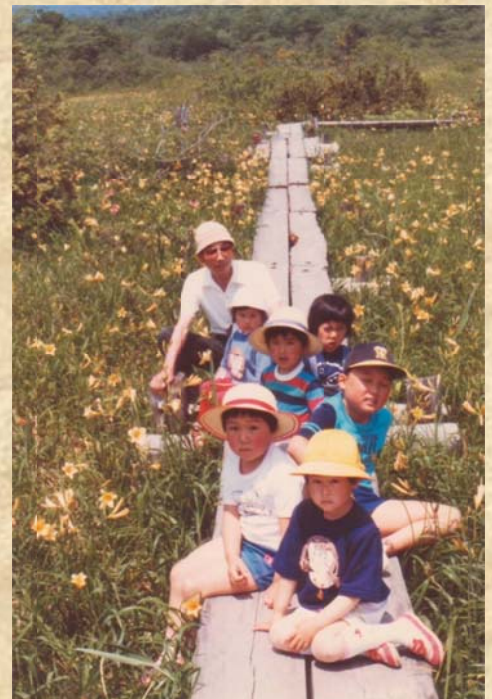


S58年頃 ふるさとの農園

世界谷地



S62 世界谷地遠足



S61 世界谷地遠足

授業風景



S26 年頃 授業風景



S63 体育の時間



S61 年頃 授業風景



H15 授業風景



授業風景



H15 本校との交流授業



S36 年頃 授業風景



ALT の先生と英語学習



H17 調理実習



S63 指導主事訪問授業



学校行事



H11 入舎式



S63 学芸会



寄宿生活にて



H15 清掃活動



H12 感謝祭



学校行事



H17 耕英花火大会



S59 年頃の写真



S63 七夕集会



ひな祭り



H6 校舎清掃活動

臨海学校



S63 臨海学校



S63 臨海学校



H2 臨海学校 気仙沼・大島



H2 臨海学校



恩師との別れ



H3 離任式



S63 離任式



入学・卒業



H2 卒業式



S63 卒業式



卒業式写真



修学旅行・校外学習



S42 修学旅行



S42 小6・中全学年仙台へ修学旅行

新幹線ホームにて



修学旅行 福島県



H16 社会科見学
細倉マイナーパーク
栗原田園鉄道

放課後



H16 毎日登校した犬のピッピー

登山・遠足



S61 校外スケッチ



H20 山菜採り遠足



S63 野外炊飯



H8 遠足登山



栗駒山 遠足登山



H7 清掃登山

思い出の校舎



S41年頃 校舎の中まで
粉雪が入ってきた



S25年11月落成 木造平屋建校舎
237㎡



S35年 鉄筋コンクリート校舎新築



H20年の校舎



学校の位置

所在地 宮城県栗原市栗駒沼倉耕英中 180番地
位置 北緯 38° 90′ 東経 140° 70′
標高 573m



思い出の校舎



H10年頃の校舎 冬には校舎の屋根近くまで雪が積もる



ジャングルジム



閉校に寄せて

金澤 芳子

「耕英小中学校の在校当時の思い出」

今年の冬は例年になく、大雪に見まわられています。毎年冬がきて吹雪になると思い出す事があります。

小学校、中学校全校の集団下校です。先生が、先頭に立ち小学校低学年から前に並んで中学生は、所々に入る。道なき道を滑る山スキーなので、家に着く頃は、先生が一番後ろになってしまうのが当たり前でした。息が出来ないくらい吹雪いていても、全身が雪で真っ白になってしまっても、ただひたすらスキーを履いて木々の間を潜り抜け学校に通っていた。そんな記憶があります。

それから、思い出深いのは、中学3年の秋です。学校始まって以来初めて東京への修学旅行の計画がありました。旅行の資金は、自分達で用意しようと話し合い、資金の元となったのが、世界谷地に生えている水苔を取り、乾燥して売ることでした。その頃は、国立公園に指定もされず、今でこそ自然破壊といわれるかもしれませんが、当時はそういったことが言われはじめる前のことでした。水苔は1,2年生にも手伝ってもらい、バケツで運びました。車のない時代ですから、なんでも手作業、体を使いました。苔だけでは、足りないもので山菜を採ったり、キノコを採ったりして資金をつくりました。そして、無事東京に行く事が出来たのです。資金は残って、翌年の旅行にも使えたと聞きました。

同級生、幼なじみと会うと学校の話は尽きません。何年も会っていなくても、すぐに飛び越えて小さい時に戻ります。

学校が閉校になっても、先生も、私達も繋がっているのだと思います。想いは皆同じですから。

菅原 孝

「駒の湯として関わった分校の思い出」

60年近い分校の歴史の中、駒の湯として関わった先生方や子どもたちを思い出す。

校長先生が駒の湯に宿泊していた頃は我が家の子どもたちは一緒に登校していた。運動会では一緒に弁当を食べ、家族的な関係だった。他の先生方も温泉に入りに来ていたので、今でも交流がある。

子どもたちともいろいろな関わりがあった。町役場の棟方さんが分校のスキー教室を始めその手伝いをした。また分校の発電機のカーボンが駄目になると、駒の湯にもらいに来た子どもがいた。学校で豚を飼って給食に出したが、子どもたちが食べないというので缶詰作りを協力したが、子どもたちが喜んで食べてくれたそう。はらみ坂自然観察路の樹木に名札をつける活動を一緒にしたこともある。

地域の文化や人との関わりの中で子どもたちはさまざまなことを学んでいく。それは地域住民にとっても同様である。廃校は地域にとっても、思い出をもらってきた私にとっても残念なことである。



天童 ひで子
「勉学の日々」

入学式の3日前に、父親から名前の書き方を教えられた。

初めはひらがなで、次の日は漢字での特訓。その次の日は近所の男の子と一緒に勉強となり、物覚えの悪い私は父親から薪ストーブに使う火ばさみで叩かれながら教えられた。そうして、泣き泣き覚え、ひらがなと漢字で名前を書けるようになった。

のちに父親から聞かされたのだが、一年生の終わり頃、父親に当時担任だった山本俊子先生が「ひでちゃんには参りましたよ、名前は漢字で書かないと父ちゃんに怒られると言って、聞き入れませんでした」と言われ、親として反省したと聞かされた。

春遅い耕英地区は、4月とは言え、まだまだ残雪があり、長靴と冬物の衣類は離せなかった。学校へ行くにも家から学校までは約2キロ近くあり、体の小さい私は学校に着く頃にはすっかり疲れきっており、授業が始まって2時間も経つとあくびの連続だった。

「頭は文化的に、体は野性的に」と父親から教え込まれたが、現在に至っても、全く逆で生きている私である。

耕英は小学校と、中学校が同じ棟にあり、中学校の先生が、廊下の窓から私の名前を呼ぶので、少しの間、中学校の教室で、休憩をしていた記憶がある。

小学校の頃は10人位いた同級生も、中学生になる頃は、男子3名・女子2名となり、教室の中はいつも静かに授業が進んでいた。先生の中で思い出に残っているのは、理科の先生で、先生はフルートが上手く、いつも綺麗な音色を奏でていた。理科のテストも女子には甘く、「なぜこういう回答したのかな」と問いただしながら、点数を上げてくれたこともある。

そうして私は小学校から中学校と、仄暗いランプ生活を送りながら、雪の下にある春を待っていた。

八木 八千代
「思い出は鮮やかに」

耕英分校には昭和39年4月から学校給食でお世話になり始めました。始めはどうやって給食は作るんだろうと不安になりながらも薪割から米15キロ位のご飯を炊きました。風が吹いて折れる石綿の煙突は、火が燃えないこともあり“メッコご飯”が何回もありました。昭和42年にガス炊飯器を2台入れてもらい、昭和44年に調理師の免許を取りました。冬になると子供たちの寄宿生活が始まり、昼の給食の他に朝夕の食事の世話をし、子供たちと同じに寝起きをしました。退職するまで32年間、昭和49年には栗駒小学校耕英分校になり、中学校は栗駒中学校に替わりました。分校には子供6人、職員で10人。何をやるにしても広すぎる校舎。何でも子供と同じことをやりました。掃除にワックス塗り、草取り、ジャングルジムのペンキ塗り、ナメコの植菌、畑の仕事、おにぎりや玉子焼きを作って遠足やスキーに行き、秋になるとたくあんの大根干し、野菜の取り入れをし、漬物を作りました。楽しかった思い出。私の頭の中にはたくさんあります。でも、上手く文章にはなりません。色々なことを思い出すと寂しくなります。耕英分校で32年間お世話になりありがとうございました。



谷津 司一
「おもいで」

私が小学校6年生の頃のある冬の日のことです。

その日は、冬の朝にしては静かな暖かい朝でした。いつものように朝食をすませ長靴の口を雪が入らないように、紐で縛って学校へ出かけようとしていました。

玄関の扉が開かないので変だなと、思いながら力いっぱい開けたら昨夜からの雪が入口をすっかりふさいでいたのでした。今までにないような大雪でした。スコップで穴を掘り外に出てみたら家の屋根がかくれるほど積もっていて、歩くのに胸のあたりまでもぐって泳ぐような状況でした。弟や妹は、とても歩けないので学校を休むことにしました。

父が送ってくれるというので、私だけ学校に行くことにし、父が先を歩いて道をつけてくれました。父も歩くのがかなりひどいようで、10歩くらい行って一息ついてというようになかなか前に進めない状況でした。後から着いて行く私も大変でした。息は切れるし足はもつれるし、やはり休めばよかったかななどと思いながら雪の中を漕いでいました。

途中からのいつも一緒の同級生や下級生の子供たちは誰も歩いていませんでした。

学校へ行く道は、やがて上り坂になりそこからは益々歩くのが大変で汗びっしょりで大雪になったことを二人でぼやきながら歩いていました。

やっとの思いで学校に着いたとき、学校は静かでストーブも燃えてませんでした。誰も来ていなかったのです。学校も入口がふさがっていたので扉を開けるのが大変でした。教室に入ったときはちょうどお昼の時間でした。その時、山本俊子先生が教室に来て今日はこんな大雪だし、皆も来ないし学校を休みにするので、もう帰いなさいと言われました。大変な思いをして来たのに残念な気持ち

高倉 吉雄

「宝物をありがとう」

私は、今の校舎で、学校給食が始まった時に入学しました。毎日学校と給食が楽しみで通い、遊び回って、楽しかった事を今になって思い出します。その頃は、栗駒町立耕英小中学校で、先生も14~15人はいましたし、生徒も100人位いました。小学生、中学生そして先生とみんなで仲良く学校行事など、色々と楽しみましたが、その中でも、学芸会や運動会では、親も参加し同じ時を過ごす事により、地域の絆も深まりがより濃くなったと思います。

自分の子供達にも学校を通して、いろんな経験や楽しさを教える事で、親子での共通の宝物が出来ました。

閉校になっても、いつまでも耕英のシンボルであって欲しいです。



と、今日は休みだという得した気持ちで来た時の足跡をたどって帰ることにしました。足跡は多少楽で、父と釣りのことや、春になってからの仕事の話で楽しい帰り道でした。昼ごはんも食べていないですぐ歩いたのですごく空腹で、家についたときは、夕方の4時になっていました。普通、学校までの時間は20分位の道のりです。朝7時から夕方4時まで8時間歩き通してでした。

さすがに疲れて、足の筋肉はパンパンに硬くなって暖かいストーブのそばで居眠りをしてしまいました。学校に行ってもすぐ帰って来たのだけど、なぜか達成感と充実した気持ちでいっぱいでした。

沼倉 喜美夫

「ありがとう耕英分校」

耕英分校が、この3月で、60年の歴史に幕を閉じることになり、自分の年齢と同じに歩んできたと思うと、とても感慨深いものがあります。当時は、親世代が開拓に入植したばかりで、山を切り開いて開墾し、炭を焼いて生活していました。今日のように、車社会ではないので、炭を背負って、ダムのあたりまで、歩いて運んでいたようです。当然、電気もないので、ランプの生活でした。唯一学校は水力発電で、電気を起こして勉強していましたが、秋に木の葉が落ちる頃、電気が消えそうになり、水路をふさいでいるゴミを拾い上げていた記憶があります。冬は、子供の腰ぐらいまで雪が降る為、学校にはスキーで登校していました。吹雪になると、一寸先も見えなくなり、よく家に、たどり着けたと思います。大変な時代でしたが、自然がいっぱいで、いろいろな体験が出来たことは自分の宝物だと思っています。

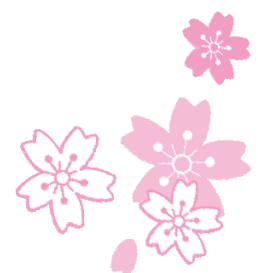
鈴木 共明

「感謝」

耕英分校が閉校することになりました。昭和26年4月、開校式時の情景がついこの間の事のように思い出されます。

開校当時の耕英は道路が整備されておらず、バスに乗るのに滝の原まで歩いて往復するほかない陸の孤島でした。このような不便な土地の分校に、最初に着任されたのは、山本俊子先生でした。栗駒中学校校からの転任でしたが、昭和36年4月、玉山分校へ転任するまでの10年間、耕英地区の児童教育に尽くされました。ご家族とともに過ごされた耕英での10年間の御心労のほどは、お察しするに余りあるものでした。のちに先生はお亡くなりになりましたが、御存命中一度なりとお伺い御礼申し上げるべきだったと今でも思っております。

閉校にあたりさまざまな思い出がありますが、何にしても、不便な耕英分校に勤務されて、児童生徒の教育に尽くされた諸先生方に感謝致し御礼申し上げます次第であります。



佐々木 貞幸

「耕英分校建設当時の思い出」

昭和24年開拓地区入植者を定着させることを目的に、耕英開拓地に分校建設設計を、県を通して農林省に申請する。

昭和25年4月に申請が認められる。ただし事業自体は栗駒村で、補助金の交付も栗駒村役場であった。

栗駒村役場との話合いの結果、栗駒村は当時台風による水害で、災害復旧工事を行っており、財政が厳しく、分校建設の負担は出来ないので、耕英開拓農協で考えて実施するようにとの事であった。入植者全員で相談し、結果、労力奉仕で分校が建設出来るなら実施しようと決し、その旨を栗駒村役場に伝えて事実上の工事に入る。

昭和25年9月頃には校庭に工事建築用材の準備も出来、大工も5人集まった。9月末頃には、入植者一同が参加し分校の建て前が始まり、夕方までに棟上げを済ます事が出来た。

それから一週間くらい後だったと思うが役場より連絡があり、急ぎ、東北農地事務局に出頭するようにとの事なので、私が責任者の代理で仙台に行くことになった。東北農地事務局に出頭し、係長席に行き挨拶をしようとした時に、「耕英か」と言われたので、私は「はい」と答えた。その後大声で新聞を指して「この記事は何だ。読んで見ろ」と再度大声で怒鳴られた。新聞の見出しには、「宮城県の開拓地に7名児童に対し40万円の国の補助金。日本一「ゼイタク」な分校」と書かれてあった。目を通し終えどう話をすればよいのか考えていたところに、係長より「すぐに補助金を返還せよ」といわれたので、私は「返還する金がありません。建った建物でお返し致します」と言って挨拶もせず役所を出た。

その日の12時頃に耕英開拓地に戻る。翌日その旨を入植者に話し、今後の進め方について話し合った。結論として、役所から見に来た場合、まだ工事が50パーセントでは話が違うとなるので、急ぎ完成すべきとの意見でまとまった。翌日より入植者全員で分校建設工事を頑張る。10月末頃に完了し、役所から来ても「金はありません建物で」と言う事が出来ると安堵した。翌26年4月に開校することになった。開校式の当日には東北農地事務局からも次長が出席し、祝辞をいただく。過日の新聞の件については何の話もなかった。

後の話で、新聞記事の出処が明らかになった。入植者の婦人が里の店に買い物に行き、帰途、登山者と一緒に登りながら分校が建設されるのを大変に喜んで話しが出来、その相手が朝日新聞社の若い記者であったという事であった。





昭和63年度卒業制作



平成元年度卒業制作



耕英分校(小・中学校)開校40周年記念
平成3年8月14日



耕英分校(小・中学校)開校50周年記念
平成13年8月12日



耕英の歩み発刊誌

耕英の歩み第1集

発行 昭和49年3月

目次

- 1、 耕英開拓の歴史
- 2、 耕英の地理的環境とその歩み
- 3、 耕英開拓の歩み
- 4、 耕英地区の略図
- 5、 学校の沿革
- 6、 卒業生の動向

内容

昭和48年耕英小中学校が、児童生徒の激減と中学校の統合計画により、閉校の止むなきに至った時点において、耕英小中学校の歴史と、開拓の歴史を後世に残すため、当時耕英小中学校に勤務した教職員によって編集された。



耕英の歩み第2集

発行 昭和54年3月

編集委員 千葉章、高橋壮成、菅原陸郎
八木八千代

表紙 佐藤吉郎（当時 栗駒小学校長）

内容 第1集発行後5年を経過し、地域開発の進展による変貌もあるため一部訂正、補稿を行い第2集を発刊。



「単に訪問者のみならず、開拓二世・三世の諸氏が先人の労苦をしのび、輝かしい耕英の未来を築くための資となることを願うものである」

～ 編集後記より抜粋 ～





開校 30 周年記念誌「あゆみ」

発行 昭和57年3月
 編集 開校30周年記念同窓会実行委員会
 栗駒小学校耕英分校
 内容 開校30周年を記念し、耕英分校の歴史とともに耕英地区のあゆみを掲載。



耕英の歩み第3集

「耕英分校沿革史 軌跡」

発行 昭和59年3月
 編集委員 及川和夫、菅野正紀、小泉信治、高橋禮伍
 内容 第3集では、第2集に訂正補稿を行いながら、さらに保存されていた写真等を資料として付け加え発行された。



発行にあたって	4 ~ 31	14 土地 望	10544 ~ 43年
I 学校の沿革	4 ~ 31	15 大田 善吉	10545 ~ 43年
昭和25年度 ~ 昭和55年度		16 伊藤 昭吉	10545 ~ 43年
II 寄稿 (思い出)	32 ~ 66	17 平 忠彦	10547 ~ 43年
1 大 堀 好	10548 ~ 43年	18 高 橋 礼伍	10549 ~ 43年
2 菅 野 正 紀	10549 ~ 43年	19 野 野 村 一	10549 ~ 53年
3 菅 野 正 紀	10549 ~ 43年	20 菅 野 正 紀	10551 ~ 53年
4 菅 野 正 紀	10549 ~ 43年	21 菅 野 正 紀	10551 ~ 53年
5 伊 藤 昭 吉	10549 ~ 43年		
6 高 橋 禮 伍	10549 ~ 43年	III 職員名簿	67 ~ 78
7 菅 野 正 紀	10549 ~ 43年	同窓生名簿	
8 菅 野 正 紀	10549 ~ 43年		
9 菅 野 正 紀	10549 ~ 43年		
10 菅 野 正 紀	10549 ~ 43年		
11 菅 野 正 紀	10549 ~ 43年		
12 菅 野 正 紀	10549 ~ 43年		
13 菅 野 正 紀	10549 ~ 43年		



「今回の企画にあたっては、耕英分校の歴史を後世に伝える意義を踏まえるとともに、先輩諸先生方のたどってこられた足跡を歴然として記録に残したいとの願いをこめたつもりであります。開校当時から、現在のような道路もない極めてきびしい地域にひたすら「子どもたちの幸せ」を求めて進んだ先輩諸先生のご苦勞の跡が、あらためてしのべられます。ご執筆いただいた諸先生、ご父兄の皆様は心から感謝と敬意を表します。そして、開拓三世も耕英魂を失うことなくたくましく成長していく心の糧となりますよう祈って、発行のことばといたします」

～ 発行にあたって から抜粋 ～





栗原市立栗駒小学校校歌

小野寺敬一 作詞
海峰 義美 作曲

1. へ いわの そらに おおらかな
 くりこまさんの はるすがた あお
 ぐ ころも ひ
 ろ びろと
 たのしく ともに てをつなぐ
 われら くりこましょう
 が っ こう

校歌

作詞 小野寺 敬一
作曲 海峰 義美

一、平和の空におおらかな
栗駒山の 春姿
仰ぐ心も ひろびろと
楽しく共に 手をつなぐ
われら 栗駒小学校

二、雪溪晴れて清らかな
三迫川 そうそうの
水を鏡に たゆみなく
誠の道に いそしみの
われら 栗駒小学校

三、稔りの秋の健やかな
里宮まつる 喜びに
学ぶ自由も 責負うて
明るい窓に 励みあう
われら 栗駒小学校

四、常磐の松のこまやかな
判官森の 下にして
強く生いたつ この胸に
はらかな夢を 抱きしめる
われら 栗駒小学校

栗原市民憲章

(平成十九年九月一日制定)

このまちに生き このまちを愛し このまちを誇りとする私たちは
輝かしい未来を信じ 知恵と力を集め 夢と活力のあるまちをつくりまします

眼 光を見つめ

足 大地を踏んまえ

手 明日をぎっちり押さえ

腹ん中 熱つつぐ熱つつぐ

額こびに広がる宇宙

天駈ける駒にまたがり

われらいま風を切って走る

栗原市の花 ニッコウキスゲ

(方言名:カンゾウ)

(2008年9月1日制定)



栗原市の木 ヤマボウシ

(方言名:ヤマグワ, ヤマガ, ヤマガン)

(2008年9月1日制定)



栗原市立栗駒小学校耕英分校閉校記念誌

発刊 平成23年3月

発行 栗原市教育委員会
宮城県栗原市金成沢辺町沖200番地